

コンプライアンスとアドヒアランス

— 自発的な服薬への手助け —

薬物療法は患者が処方された薬を服用することから始まります。服薬に関して医師、薬剤師は服用目的、服用方法を患者に説明し、患者はそれを遵守し服薬を実行します。この考え方は医師、薬剤師が患者に服薬を遵守させるという医療者が主体となった服薬管理で、コンプライアンスと呼ばれており、これまでの服薬に関して一般的な概念となっていました。コンプライアンスは、「決められたとおりに患者が正しく服薬すること」を意味し、医師や薬剤師に命じられたから従うだけという患者が受動的なニュアンスを持っていました。この考え方では、患者が服薬を中断したり、不規則に薬を服用したりして病気の再発や再入院の可能性が高いことが問題となっていました。

服薬の自己中断や不規則な服薬には次のような要因が挙げられます。

条 件	要 因
薬 剤	薬剤の形状、味・においが不快、服用量・服用回数の多さ、薬物の効果不十分、副作用の強さ
患 者	不快な服薬経験、服薬放棄、病識や薬物療法への理解不足、治療に対する意欲低下
医 療 者	服薬の必要性や薬物の効果や副作用について説明不足、薬物治療に対する知識や経験不足
周 囲	患者の周囲に家族のサポートがない、医療従事者と患者の相性が悪い

このコンプライアンスを改善した考え方がアドヒアランスという概念です。患者が、服薬意義を十分に理解したうえで治療に参加する患者主体の服薬管理という考え方です。アドヒアランスは、「患者が積極的に薬剤の決定に参加し、その決定に従って服薬を実施、継続すること」を意味しています。医師と患者がコミュニケーションを取りながら薬剤を選択し、患者は医師、薬剤師から提供された薬の情報に納得した上で服薬を行います。自分で納得して服用しているため、自己中断や薬の不規則服用が極めて少なくなります。

患者自身が服薬するという点に関してはコンプライアンスもアドヒアランスも同じです。しかし、患者に服薬を遵守させるというコンプライアンスと、患者が作用、副作用について十分な説明を受け納得した上で服薬するというアドヒアランスとは、患者の自己決定という意味で大きく異なっています。

アドヒアランス向上のためには、実行可能な服薬方法か 服薬を妨げる因子は何か それを解決する方法は 効果と副作用は 服薬の必要性は 服薬のための動機づけなどを患者とコミュニケーションを取りながら説明し、そして納得させることが重要です。今後、薬剤師は患者の自発的な服薬を助けるような服薬指導を行わなければならないと考えます。

参考資料：月刊薬事2008年3月号

(鹿児島市医師会病院薬剤部 中木原 由佳)